

ココに注目！学院鉄研のレイアウト

このページでは、第 64 回学院祭に展示しているレイアウトを少しですが解説いたします。
この裏のレイアウトプラン図と併せてお読みください。

レイアウトの主な工程

① 板・資材のリサイクル、準備

学院祭が終わってすぐ、レイアウトの解体に入ります。破損の酷いフレキシブル線路（レイアウト用の安価な線路）や、来季構想外の板はお役御免となりますが、来年度も引き続き使用する板は穴をパテで埋めたうえ、フラットに整形します。この後は角材で補強し、ニスを塗り、乾燥してからさらに塗料を塗ります。この他にも、植物を表現する着色スポンジやバラスト（線路の砂利）も回収して、また使用します。

② 線路敷設

学院鉄研の線路は経年劣化等により、状態が悪いものが大半です。敷設前に一度、一本一本念入りに清掃を行っています。なお線路固定には釘を使用しています。また、ほぼ全てのカーブ区間にカント（傾き）が付いており、車両が内側に傾いて走行するようになっています。

多くの線路が平行に延びるので、敷設にはミリ単位の正確さが求められます。伝達ミス等で電車区の部分は、計 3 回打ち直しとなりました。

③ 情景・各種電気作業 ～完成～

川や飛行場・山などといった情景を製作します。線路周りはバラストを撒き、汚し塗装（錆や油など）をし、更には草を生やします（笑）。そして道路部分を塗装し、建物・信号等のアクセサリーを配置して情景は完成となります。駅舎等の建物には、部員の自作のものもあります。今回、地面や山肌の表現には石膏を用いました。

この後、各種配線等を行って作業は終了です。

今年の見どころ

■二層構造と地下駅（画像は昨年のものです）

半地下式のホームにはホームドアが装備されています。丸くて太い柱や広告、エスカレータなど、再現するものはたくさんありますね。照明も勿論装備しています。

昨年大好評だった人形も、ここでは配置しています！！



■山・川

新規製作です。山はスタイロフォームという、高密度の発泡スチロールを重ね合わせて整形しています（写真上）。



川はまず石膏で下地を作り、乾燥後川底を塗装（写真下）。その上に透明樹脂を流し込んで表面保護のクリヤーを吹いています。



■飛行場・航空基地

学院鉄研には軍事班なるものが存在します。その有志らによって、今年は 2 つの航空基地が作られます。展示してある機体のほとんどは、N ゲージ（1/160～1/150）より少し大きい、1/144 スケールのものです。皆さんはいくつ分かりますか？

この他にもライトが点く運転体験車両・多列車運転システムなど見どころはたくさんあります。じっくりとご覧ください。